

ビキニ水爆実験被災五〇周年記念・図録

写真でたどる

第五福竜丸

第五福竜丸

写真でたどる

第五福竜丸

目次

刊行にあたって

発刊にあたって・東京都

1 水爆実験との遭遇	10
2 乗組員のその後と久保山さんの死	18
3 「原子マグロ」と国民生活	24
4 ビキニの海へ—俊鷗丸の海洋放射能調査	30
5 漁船第五福竜丸	34
6 原水爆反対の声おこる	48
7 乗組員へのお見舞いの手紙	50
8 漁業補償と事件の「決着」	54
9 マーシャル諸島の核被害	56
10 世界の核実験被害	58
11 原水爆のない未来へ	60
12 第五福竜丸の保存と展示館の建設	62
13 船体とエンジンの再会	66
展示館のこんにち	68
年譜	72
解説：第五福竜丸—廃船から展示館開館まで	74
：水爆実験と日本の科学者	78
：第五福竜丸事件の現在—日本経済への影響	84
：マーシャル諸島の核被害者	88
：世界の核実験被害	92
：第五福竜丸の被災と被爆者	94
おわりに—展示館開館から今日まで	96
主な所蔵資料	98
掲載写真提供一覧／参考文献／50周年記念プロジェクトのよびかけ／都立第五福竜丸展示館の案内	

<凡例>

- ・各章の冒頭にはその内容の理解を助けるためにリードをおいた。またビキニ水爆被災に関する専門家、協会関係者による解説を収録した。
- ・平和協会が所蔵する現物資料は、主なものを収録した。写真資料は、現在の展示を中心に構成し、撮影者、提供者、および資料データは巻末のリストに収録した。
- ・第五福竜丸は、本来は「第五福龍丸」で「龍」の字が用いられているが、平和協会では船体以外は常用漢字の「竜」を用いている。
- ・文中では敬称は省略し、肩書きは基本的には当時のものを用いた。
- ・引用資料(乗組員の手記など)は、原文のまま掲載したが、漢字は常用漢字を用いた。年号については西暦を基本とした。

刊行にあたって

財団法人第五福竜丸平和協会会長 川崎昭一郎

50年ほど前に、湯川秀樹先生の一般向けの講演会を2度聴いたことがあるが、今でも鮮明に記憶に残っている。

1回目はノーベル賞受賞の機会に、東京・共立講堂で行われたもので、高校生だった私は長い行列の後に続いた。2回目は、ビキニ水爆実験直後、物理学を専攻する大学生のときである。

第2次世界大戦後の再出発と復興の過程で、湯川氏ノーベル賞受賞の日本社会各分野へのインパクトは、今日では想像できないほど大きかった。若い人々には夢を与え、大きな励ましとなった。多くが苦学を強いられていた物理学科の学生の間で素粒子論志望者が、私を含め大幅に増えた。

湯川氏の、もの静かな口調ではあるが、人類的視野に立った毅然とした水爆拒否の態度表明は、日本の良心を揺り動かし、とりわけ、科学者の平和運動を鼓舞するものであった。

原水爆禁止と平和の追求を生涯の仕事とする有能で勇敢な人々が各分野で数多く輩出した。

今日、世界情勢や国際問題の議論の多くが、メディアを含め、政治家や体制寄りの学者・評論家によってリードされているのとは違って、当時は、第一線の科学者・専門家が、議論に棒をはめることになる権威や前提を一切認めず、いわば白紙の状態から、討論と検討を積み重ねた。自主・民主・公開の原則を守りながら、英知を集めて徹底的に論議し、方向を決め、行動に移していった。ホットな議論になることが多かったが、さわやかな空気に満ちていた。政治に深入りし過ぎていると、揶揄されることもなかった。

これは日本国内に限られたことではなかった。その代表的なものが、20世紀が生み出した珠玉の文書「ラッセル=アインシュタイン宣言」である。

アインシュタインは、一般には20世紀初頭の二大革命理論、量子論と相対性理論の創始者として知られているが、現在、エレガントな宇宙について全てを説明できる究極の理論が追求される中で、統一理論の最初の提唱者としてのアインシュタインが改めて注目を浴びている。

ラッセル=アインシュタイン宣言、ゲッテンゲン宣言、バグウォッシュ会議は、その科学に裏付けられた質の高さと精緻な説得力ある論理により、当時の東西の世界首脳にも直接に影響力を及ぼしたのである。

そして、それらに到る議論において必ず言及されるのは、第五福竜丸ビキニ水爆被災の事実であった。ヒロシマ・ナガサキに対しても科学者は発言した。原爆投下からの教訓として、フレデリック・ジョリオ・キュリー等によって提唱され、確立された「科学者の社会的責任」という考え方は、アインシュタイン等の動きのプレリュードであり、ビキニ被災事件後の、「死の灰」とのたたかいへの科学者の組織的な参加の基盤・土壌を提供したことは間違いない。

第五福竜丸展示館は、水爆実験被害のごく一部を取り上げたものであるが、第五福竜丸の実物との対面を通して、人類の絶滅につながりかねない水爆・核兵器の恐ろしさを学び、「原水爆のない未来の創造へ」という船からのメッセージをしっかりと心に受け止めてほしい。

第五福竜丸事件から50年を迎える機会に、「ビキニ事件・第五福竜丸を知らない世代に伝える」というコンセプトに基づく50周年記念プロジェクトの一つとして、第五福竜丸と展示館所蔵資料についての初めての図録が出版されることになった。

第五福竜丸展示館に来られ、ビキニ事件を見、知り、感じていただくこととあわせて、本書によって第五福竜丸事件と当時の社会に対する理解を深めていただければ幸いである。

2004年2月

発刊にあたって

東京都東部公園緑地事務所長 伊藤精美

平成16年(2004年)3月1日は、第五福竜丸が太平洋ビキニ環礁での水爆実験で被災してから、50年を迎えます。

この船は、昭和22年(1947年)和歌山県で建造されたカツオ漁船で、船名を第七事代丸として進水しました。その後、マグロ漁船に改造され、船名も第五福竜丸と改名し遠洋漁業に従事していました。

昭和29年(1954年)3月1日太平洋上での水爆実験により被爆した後、船は帰国後更に改造され東京水産大学の練習船として使用されましたが、昭和42年(1967年)老朽化のため廃船処分となりました。

その後、放置されたままの第五福竜丸を保存しようとする機運が高まり、各方面から要請を受けた東京都は、昭和51年(1976年)に、東京湾埋立地に造成した都立夢の島公園内に第五福竜丸展示館を建設しました。

展示館開館以来、平成15年(2003年)10月末までの28年間で、390万人の来館者があり、その大多数は小学・中学・高校生であります。

これまで、財団法人第五福竜丸平和協会が収集保存した貴重な資料等収蔵品については第五福竜丸と共に展示されるのみでありましたが、このような形で図録が発行され、その存在を明らかにすることは真に意義あることと思います。

第五福竜丸展示館からは、展示館を訪れる若い新しい世代に対して、遠洋漁業に出ていた木造船の実物と関係資料によって知っていただくとともに、原水爆による惨禍がふたたび起こらないよう願いを込めまして、今後も効率的な展示を続けてまいります。

平成16年(2004年)2月